

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の
向こうに未来が見える～』 Vol. 7

● J F Aサッカー1級審判インストラクター 唐木田 徹



バタンバンのシンボル

みなさん、こんにちは。

この時期のカンボジアは最高気温が30度を、最低気温が20度を下回る日があり、カンボジア人が寒い？と感じる季節です。先日は2カ月ぶりに雨も降り、それも3日も続けて降ったので、「寒い、寒い！」と彼らは言っていました。

さて、今回は「HUN SEN CUP」のお話です。

カンボジアの首相の名を冠したこの大会は、日本でいえば天皇杯？しかし、規模が違います。CPLの10チームに、州の代表など24チームを加えた34チームで行われます。8つのブロックに分けるのですが、チーム数のきりが悪いため4チームリーグと5チームリーグができてしまいます。会場は4つの州、2つのブロックを同じ会場で運営します。



モーニングトレーニング

昨年は、私が各会場を2～3日ずつ回って指導にあたりましたが、今年各会場に1人のインストラクターを置きました。私のほかに

は、現在インストラクターの勉強をしている2人、Try と Bunhoeun。

この2人は昨年、日本の International Referee Instructor Course やFUTROⅢを受講しています。そして、将来インストラクターになって欲しい現役の国際副審、Sochet です。事前に、指導のポイントやアセスメントレポートの書き方を打ち合わせて、それぞれの会場へ向かいます。



トレーニングをしている公園の武器廃絶モニュメント(左)。焼却されたライフルや銃弾でできています(右)

私の担当はバタンバン。昨年、初心者講習会を行なったところ
です。実は、今回はインストラクターの配置のほかに、新規の試み
がありました。それは、初心者講習会の中での優秀者をこの大会で

研修させることです。

今まで、初心者講習会そのものも行われることも少なく（ほとんどなく）、さらにその人たちへのフォローアップが全然ないのが現状でした。そこで今回は、思い切って彼らをアポイントして実戦で研修させることにしました。



ツインに4人以上泊まります！（上）。食事と一緒に（下）

とはいっても、いきなり試合にアポイントしてもアップアップに

なるでしょうから、綿密に計画を立てます。彼らのアポイントの前日には、ベテランたちが一緒に試合を見ながらアドバイスをします。そして、試合当日も個別にアドバイザーをつけ、試合後にアセスメントをします。第4の審判員の場合は、横でサポートしながら手続きの仕方、気の配り方などをアドバイスします。試合の難易度も考えながら割当て、アドバイス、研修を繰り返します。



緊張の初公式戦、FIFAやCPLレフェリーに負けじと胸を張ります(左端)

彼らは実際に審判することでアドバイスをもらい、また、ベテランや国際審判たちの審判ぶりを間近にみることから技術を吸収し、さらに寝食を共にして生活面からもいろいろ学びとったことでしょ

う。これらの経験をぜひ地域で伝えてもらえれば、地域のレベルアップにつながるでしょう。プノンペンから300kmのこの地域でも、プノンペンと同じスタンダードが適用されるようになることを期待しています。



将来の代表選手、それともFIFA？

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。